

令和5年度 第2回能美市総合教育会議 議事録

I 日 時 令和6年2月26日(月)

開会 10時00分 閉会 10時57分

II 場 所 能美市根上学習センター 1階講堂

III 出席者

【構成員】

市 長	井出 敏朗
教育長	木下 浩明
教育長職務代理	徳野 伸彦
教育委員	竹本 里奈
教育委員	崎山 由樹夫
教育委員	竇達 晶子

【教育委員会事務局】

管理局長、管理局次長兼学校支援課長、教育総務育課長、まなび文化課長、ふるさと文化財課長、スポーツ振興課長

【司会進行】

教育総務課長

IV 内容

1 開会

2 市長挨拶

(市長)

3連休明けの大変お忙しい時間にもかかわらず、教育委員の皆様におかれましてはご出席を賜りありがとうございます。第1回の会議は年末の12月27日に行われましたが、まさかその5日後にあのような大震災が起こると思わず、皆様も親戚やご友人の中にもしかしてお亡くなりになられた、あるいは被害を受けられた方もいらっしゃるかもしれません。ご冥福、お見舞いを申し上げたいと思います。現在、輪島市の中学生が白山市内の白山ろく少年自然の家等に250名ほど避難をして学校生活を送っていると聞いています。今日の日経新聞のコラムにこのような記事がございました。あなたにとって「いい学校」とは、そう聞かれたら何と答えるか考えてみよう、というものです。「進学率が高い」、「いじめがない」、または「熱意のある教師がいるかどうか」などです。ここでは、世界で1、2位を争う高学力の国、フィンランドでは、決まってこのような答えが返ってくるといいます。「家から一番近いこと」。このような記事を読むと、今被災して能登から白山市へ避難している皆さんが、どのような思いで学校に通い、毎日を過ごしているのだろうと思うと、能美市の子どもたちは市内11の小中学校に安全安心に通えているということに改めて感謝しているところであります。本日のテーマは教育大綱の改正ということですが、子どもたちが毎日安心して、元気に笑顔で楽しく学校に行けることが最も大切なことだということを改めて能登の震災を見て実感し、そのような子どもたちを守っていかなければならないと思いました。今日は教育大綱の改正について教育委員の皆様には慎重審議を賜りますことをお願い申し上げまして冒頭の挨拶といたします。本日はよろしくお願い申し上げます。

3 議題

能美市教育大綱の改正について（案）

(事務局)

能美市教育大綱の改正について（案）教育総務課長が説明

(崎山委員)

前回の委員の意見、またパブリックコメントの意見を反映していただきありがと

うございます。これ以上は追加する必要はなく、今の案で適切ではないかと思えます。1点だけ、4番目の項目の「…学校生活を推進し、」から最後「育成を推進します」という部分で文章的に「推進」という言葉が重複しているので、最後は「育成に努めます」という表現のほうが自然ではないかと思えます。

(学校支援課長)

ご意見ありがとうございます。崎山委員のご指摘のとおり、同じ言葉が続いておりましたので、上の文章と同様に「努めます」という表現に修正したいと思います。今後もコミュニティ事業等を通してふるさと愛の醸成、持続可能な社会を目指した教育現場づくりを進めていきたいと考えております。

(寶達委員)

質問等は特になく、内容的にもこれでいいと思えます。未来を見据えて行動するということが大事だと思うのですが、やはり今の現状をその都度見つめていかないとなかなか未来につながっていかないと思っています。常に新しい課題がどんどん出てくると思いますので、その都度今を踏まえた上の未来ということを考えた教育大綱であってほしいと思います。また、できる方はどんどん先へ進んでほしいのですが、私はどちらかというと困っていたり、行き詰まっていたりする方の助けになればと考えています。そのような方がいた時にアドバイスをしてくれる人がいたり、居場所があったりするととてもすばらしい能美市になっていくのではないかと感じています。

(司会進行)

今寶達委員がおっしゃった居場所づくりということに関しては、3つ目の部分で反映させていただきました。いじめ、不登校対策の充実を図るとともに、居場所ということも含め、学校に児童生徒が安心して来ることができるような体制を築いていくことを目指します。

それでは続きまして竹本委員さんいかがでしょうか。

(竹本委員)

私も同じく質問等はなくこれでわかりやすくなっていると思います。パブリックコメントが能美市の子どもたちのことをとてもよく考えられた意見で、とても勉強になりました。先日の教育委員会会議で教育長が「自律心」と「自立心」の違いのところで「自分を律する心があってこそ自分で立つことができる」という説明をされていたのを聞いて、本当にそれが親の願いだというふうに思いました。以上です。

(司会進行)

ありがとうございます。いただいたパブリックコメントのご意見をふまえ、2月の教育委員会会議の中でも「自律心」と「自立心」のどちらを使うかで議論させていただき、最終的に「自律心」に修正させていただいております。

それでは徳野委員、いかがでしょうか。

(徳野委員)

私も皆さんの基本的には同じ意見であります。前回会議での私たちの意見、パブリックコメントの意見も反映しているということで、施策の説明もしていただきましたが、十分に網羅されていると思います。先ほど市長も言われましたが、基本理念が一番大事だということです。「地域に根ざし豊かな未来を切り拓く人づくり」という大きな基本理念から目標、方針、具体と下りてきて3カ年の教育大綱になるというふうに私は理解しています。昨今、感染症の流行や災害があり、私たちの想像もつかないようなことが日々起きている時代です。これが今後3カ年この計画で施策が具体化できればいいのですが、世の中は日々変化しています。小さい変化から大きい変化までいろいろありますが、やはりその変化に柔軟に対応できるような組織になればいけないのではないかと常々思っています。この施策の部分がそのような変化があっても柔軟に対応できるような大綱であってほしいと思います。以上です。

(市長)

1つ確認したいことがあるのですがよろしいですか。6つ目のところで「インクルーシブ教育」という部分があるのですが、今能美市ではインクルーシブという言葉

は「誰ひとり取り残さない、仲間外れにしない地域共生社会」という意味で使わせていただいています。例えば、「スマート・インクルーシブ・シティ」ということで、デジタルの力を使ってインクルーシブな世界を目指しましょうというように使っています。今この言葉が国際化の部分のところで使われていて、冒頭にあるように「グローバル化を見据え…」と書かれていると、グローバルというのは世界的視野という意味なので、それを見据えてインクルーシブ教育を目指すということになると、私は少し違うのではないかという思いがしています。どちらかというと生涯学習の分野のほうが合っているのではないかと感じるのですが、皆様いかがでしょうか。

(崎山委員)

市と教育委員会とで整合性をとることが必要だと思いますので、もしどこか他のところのほうが適正なのであればそちらに移すこともできると思います。インクルーシブの語源はもともと混ざり合うという意味も含まれており、教育現場では「インクルーシブ教育」という言葉は以前からよく使われています。市長が言われたようにグローバル化との整合性でいえば確かに同じ並びで使用するのは違うのかなというふうに思うのですが、学校教育の中に含まれていてもこれはこれでいいのではないかと思います。どちらかというと学校教育の3つ目の方針の具体として入れたほうが適切ではないでしょうか。

(徳野委員)

今ほどの意見を踏まえると、同じグローバル化の項目の部分の「多様性教育」も検討し直したほうがいいような気がします。

(教育長)

国際教育や多様性教育の部分は、国際理解や多様性への理解という言葉で検討できるのかなと思います。インクルーシブ教育については学校との関連もあると思うので、もう少し学校関係で使われている文言との整合性をとりながら少し修正させていただき、改めて市長及び委員の方に提案させていただけたらと思います。

(司会進行)

今ほども教育長からお話がありましたように、改めて検討が必要な部分かと思うますので、一旦このご意見をお預かりさせていただき、教育委員会として最終案としてまとめて再度提示させていただこうと思います。よろしくお願いします。

それでは今後の予定についてご説明いたします。この教育大綱につきましては、今年の3月末までに策定に向けて進めてまいりたいと考えております。教育大綱の完成版につきましてはまた皆様にお渡ししますが、市のホームページにも掲載させていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは市長から全体を通したご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

(市長)

私ばかりが発言しており恐縮ですが、まずは皆様方、限られた時間の中で貴重なご意見ご提言をいただき、ありがとうございます。少しだけ今日の話題と違うお話しをさせていただきます。明日から議会が開会されます。教育関連でもいろいろと提案させていただいている中で、いくつかご紹介させていただきます。1つ目は、給食費の無償化です。今年度の2学期から中学校、3学期から小学校の給食費の無償化に取り組んでいまして、来年度からも4月から引き続き無償化を継続するために予算を付けさせていただいています。2つ目は支援を必要とする児童生徒が最近増えているということもあり、そのような子どもたちに対応できる教室を増やすとともに支援員を充実させていただくことをお伝えします。また、地域部活動をさらに推進させていきたいということで、今7つの競技が地域部活動に移行しているのですが、今後もしもご協力をいただきながらさらに進めていきたいということです。また、今年度バスケットボールやサッカー、ハンドボールのトップアスリートの皆さんに来ていただいたのですが、これが結構好評でしたので、来年度はほぼすべての競技で選手の方をお呼びして競技力の向上や部活動の自立を促していきたいと思っています。ぜひ教育委員の皆様におかれましてもご理解、ご協力を賜りますことをお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。今日はどうもありがとうございました。

4 教育長閉会挨拶

第2次能美市総合計画に基づく能美市教育大綱（令和6年～令和8年）の策定について皆様の貴重なご意見をいただきました。これは教育委員会として取り組む方向性を確認するものとして捉えています。私たち教育委員会の事務局は具体的な施策に応じて事業をしっかりと展開し、結果として「地域に根ざし豊かな未来を切り拓く人づくり」を推進していかなければいけないという使命感を新たに感じています。よく「教育は人なり」と言われており、人によって教育の結果は変わる、というような使われ方をしますが、私がもう1つ思っているのは教育の結果はすべて人が返してくれるということです。その事業や施策はどうだったのかということは、人が返してくれるものというふうに思っています。そのような意味では、今我々が取り組もうとしている事業が、市民や子どもたちの楽しい笑顔、そういうものへ繋がっていくことが大切だということを感じています。そして、それに取り組むことをここでお誓いし、閉会の言葉とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

5 閉 会

10時57分終了